

第5回 議会改革推進特別委員会記録

令和4年2月18日(金)

10時00分～11時30分

全員協議会室

- 【委員】 牛尾委員長、西田副委員長
足立委員、村武委員、小川委員、佐々木委員、田畑委員
- 【委員外】
- 【議長団】
- 【事務局】 下間書記、古森局長
-

議 題

1 議会BCPの作成について

- (1) 全国市議会議長会フォーラム「大災害・感染症と議会」動画配信視聴を終えて

(2) 大津市議会WEB行政視察実施について

- ・実施日：令和4年3月18日(金) 午前10時～ 全員協議会室
- ・質問事項の提出〆切：令和4年2月25日(金)
- ・委員派遣報告書と行政視察レポートの作成

2 委員会代表質問について

3 その他

○次回開催 3月 18日(金) 10時～ 大津市議会WEB行政視察 全員協議会室

【議事の経過】

(開議 13時00分)

牛尾委員長

第5回議会改革推進特別委員会を開会する。

議題1 議会BCPの作成について

(1) 全国市議会議長会フォーラム「大災害・感染症と議会」動画配信視聴を終えて

牛尾委員長

先般皆には全国議長会フォーラムを視聴いただき、それぞれ報告書を出していただいている。今日はその辺で、所感も含めて出していただいているが、お一人ずつ感想を少し述べてもらいたい。佐々木委員から、視聴を終えての感想で結構なので願います。

佐々木委員

ほかの方の内容を見るとほぼ似たり寄ったりで、ここはというところが大体同じ感じがした。聞いた感想だが、特に前半はここに書いてあるとおり災害時の対応の経緯やさまざまな問題が浮き彫りになってとても参考になった。細かくは書いてあるとおりだが、特に大きな災害が起きる、その災害が大きければ大きいほど、対応するのは基礎自治体、ここでいうと浜田市なので、対応するにもなかなか専門的なノウハウも職員もいないということで、いかにトップがどのように判断して動いていくかが非常に重要だというのが特に残っている。

よく自助・共助・公助というのがいろいろな場面で使われる。それはそれで動ける人はよいが、特に行政の動きが重要で、行政が動かねば市民や地域はなかなか動かないということも言われていた印象だった。

あと議員が住民の声を聞いて行政に要望を伝えることが、かえって混乱を招いて事を大きくするというのも、改めて感じた。

もう一つのほうについては、それぞれの議会の議長が話をされたわけだが、特に熊本県八代市の議長の報告がとても印象的で、現場を乗り越えた物すごい体験というのが伝わってきて、ある意味、一議員として肩書も何もそういう場合は関係なく、いかに地域のボランティアとして動けるかが非常に重要ということ言われていたのが特に残っている。細かくは書いているとおりである。特にBCP、大津市議会も後からつくられたようだがつくって終わりではなく、さまざまな体験、経験をすごとにレベルアップというか内容を充実していく制度だと感じた。特に八代市についてはぜひこの議長と直接会って、もっと話を聞きたいと感じた。

足立委員

佐々木委員とほぼ同様の意見だが、私も総合的にこの研修を受けさせていただき、まずマニュアルがあったとしても実際に災害が起きたらマニュアルどおりに動かない、マニュアルに想定していない事態がどうしても発生してしまう。そういったときの議員としての動き、あり方を、執行部に対してどうにかせよという発言は大きな混乱を招く一つの要因になってしまうのかとも感じたし、そうしたところを我々浜田市議会と

しては、統率統制の取れた態勢で、万が一のときにもきちんとした対応ができるようBCPの必要性は改めて感じた。細かいところは大体、佐々木委員が言われたので、そこは省略させていただきたい。

田畑委員

もう一つ感じたのは、今の時代、マスコミとの事前協定なり事前の情報提供体制づくりは議会も一緒になって取り組む必要があると感じた。

まず私は書いてあるように、防災に詳しい専門職を配置すべきだろうと。これは議会として、浜田市として、一つの自治体としてのBCPを推進していく上においては大変必要だろうということである。皆がここへ書いておられるようなことだが、特に議会としてBCPに取り組むのであれば、BCPに対してあまり認識がなかったのが、浜田市のBCPについてはどのようなものをネットで調べても出てこない。浜田市が防災について、災害について意識が低いのではないかと思った。そうしたことからこの特別委員会でも、大災害についてのBCPを協力、推進していかなければならないと感じた。

浜田市議会は災害対応について生活支援する仕組みだとか、支援金の問題だとか、いろいろな意見があったが浜田市議会とすれば、そこへたどり着く前にまず大災害に対する考え方を一本化していかないとなかなかいけないのではと感じた。

村武委員

今回専門家の方や災害の経験があった自治体議員のお話をお聞きして大変勉強になった。私が感じたのは先ほどからあるように災害対応のマニュアル作成、そして議会BCPの策定は本当に必要であると感じた。そしてさらに、マニュアルを作成しただけではなく、それを実際にきちんと考えて行動していくところまで落とし込まないといけないと思った。

御殿場市は議会防災訓練などをされていて素晴らしいと感じた。浜田市においてもこうしてタブレットを支給していただいているので、昨日の議会広報広聴委員会でもあったが、現在コロナ禍で、タブレットやオンラインを活用した議会もしっかり考えていかないといけないと思った。

小川委員

今の私自身の課題意識と少し合わないところもあったのだが、コロナ禍ということも含めてマニュアルなどについては検討するよい機会かと感じて拝聴した。感想を述べているのでご参照いただきたい。

西田副委員長

私も皆と重なるが、最初に感じたのは議会BCPの必要である。最近の地球環境を含めていろいろな情勢の中で、議会BCPの作成は急ぐ必要があるとまず感じた。浜田市においていろいろ想定される災害があるので、そういったことを実際想定しても現実には想定外の、それ以上のことが起こりやすいということで、職員においても日常業務プラスアルファの災害対応が求められるということもあるし、地域住民の方々には誰一人取り残さないための情報伝達手段、そしてまた自助共助の地域のマンパワーといった地域の組織力も必要である。議会は行政と地域との間に入って、地域力をアップさせるための、議会議員としての意識の重要性、意識のアップも必要だと感じた。

牛尾委員長

このフォーラムは無料で視聴できたので非常に有効だった。浜田、三隅もそうだがかつては58年災害のときは三隅の三賀森町長がNHKで、私のまちは全滅したという、あの言葉がいまだに頭に残っている。58年災害、60年災害、63年災害と続いて、浜田川にダムができた。美川は大長見ダムができた。今、矢原川ダムはまだ10年くらいかかる。矢原川ダムができると風水害の関係で河川を中心とした災害についてはほぼできているのだが、浜田地震があって150年くらいになるので、やがて地震があるのだろう。例えば三瓶山も活火山なので地震があるだろう。それから今我々が遭遇している感染症。

皆のまとめを含めてBCPを恐らく皆もつくる必要があるのだろうという報告になっているので。今後つくっていくことを意思確認する中で、どのような柱をつくれればよいか問題になるのではと思っている。

私も視聴する中で、中川氏が言っている阪神淡路大震災のときに村山氏は何もできなかった。丸投げしたのだと。次の菅氏に至っては、ひどいものだったという報告もあるので、やはり一国の総理ですら何もできなかった、かえって混乱を招いたとか、安倍氏が積極的に現場に行っただけでかえってそのことで混乱したとか、そういった。これは歴史上の事実なので。日本のトップがそういう混乱に陥ってしまった現実を我々はしっかり見ながら、そうならないようにしなければいけないと今回のフォーラムで確認した。

それとやはり、職員も被災するし、我々も被災するから、我々の状態がどうなっているのかも書き込んであった。私が気になったのは、災害は弱いところに必ずしわ寄せがくる。今は町内会がほとんど機能していない。弱い町内会は全て解散する。元気のよいところは何とか生き残っているが。そういう書き込みがあったのが少し気になった。一方ではまちづくりを進めていかねばいけない中、今回のコロナは弱い町内会が、町内としての行動ができなくなって解散している、これが一番憂慮すべき問題だろうと思った。

あとは先ほど言われたような八代市の被災の問題があったので、できれば現場へ行って生の声を聞きながら、やはり災害を体験してその後でBCPをつくらねばいけないというのが一番身近に感じて、それぞれ経験則であるので、BCPをつくる中で反映しやすい。かつて浜田市もそういう経験が多かったのだが、今は風水害など少ないので、できればぜひ。今度の大津市はウェブだが、年度があければ1回はそういうところへ行って生の体験を聞きながら作成すればと思っている。

皆の感想を全てお聞きした。一応委員会として、議会BCPについてはつくっていくべきだという認識で今後進めたいと思うが、その辺についてご意見があればお願いします。

足立委員

今回研修を受講させてもらって、さらに強く感じたところではあるが、やはりBCPを真剣にそして早急に着手することで、万が一のときにも

我々議会としてもどうあるべきか、どう行動すべきかというところを全議員の共通認識をまず持たなければいけないと思うので、早目にこれは取り組みたい。

牛尾委員長
田畑委員

ほかに。

足立委員の言われたとおりである。そこで議会として、浜田市がやっている業務継続計画の中身を見ながら、議会は議会として違った見方でBCPをできるだけ早くつくるべきだろうと思っている。よろしく願います。

牛尾委員長
小川委員

ほかに。

私も所感に書かせてもらったが、実際策定するとき、今までの流れでいくと多分、当議会では議会改革推進特別委員会でやっていくということを確認されればよいと思うが、他自治体でつくった経過を見ると、検討会を別途立ち上げられ、その中で進められているということがあった。この浜田市議会はそういう方向でやるということが確認されればそれでよいと思う。それでたたき台をつくった段階で皆に諮る形で進めていかれるのだろうと思うので、そういう形で一度確認しておいていただければありがたい。

牛尾委員長
佐々木委員

ほかに。

ぜひ必要な制度だし、先ほど少し発言したが、BCPの形をつくって終わりではなく、どんどん進化させるものなので、とりあえずできるだけ早いうちに先進事例を参考にしながらつくるべきだと思う。

たちまちつくるのも、どこかのまねというのではなく、こういうのが理想だろうみたいなものではなく、実際に災害に遭った事例を聞きながら、いざというときに機能するようなものを、とりあえずの中でもつくっていくべきだと感じている。

村武委員

皆と同じ意見だが、つくっていくときにできれば専門家からのご助言などがいただけるとよいと思った。なかなか難しいのかもしれないが。

牛尾委員長
村武委員

具体的に、どういう専門家か。

大学の先生とか。私自身個人的に知っている方はいないので、なかなかこの方をと提案はできないが、皆がそういうつながりがもしあれば、そういったところでご意見などいただくとよいと感じた。

牛尾委員長

先ほど小川委員が言われたようにこの特別委員会でBCPをつくってはどうかということについては、いろいろな考え方があると思う。議長が見えているので、議長はどうだろうか。

笹田議長

もちろん必要なことだと思っているので、ぜひ進めていただきたいのだが、一つ断りを言わせていただきたい。コロナのときに先に対策本部のほうで、議会の感染症の取り扱いについてはこちらで決めさせていただいたのだが、そちらももし改善する見込みがあるならこちらの特別委員会でたたいていただいても全然問題ない。早急につくったのであのような形になったが、それもBCPとつながりがあると思うので、感染症

だけでなく地震災害いろいろあると思うので、そのあたりで取り決めを
しっかりしていただけたらありがたい。

牛尾委員長

議長から話があったように、とりあえずこの特別委員会でBCPのた
たき台のようなものをつくらせていただいて、それは当然、会派へ還元
したり、ある程度のものができれば議会運営委員会に上げることもある
と思うが、とりあえず特別委員会でたたき台みたいなものをつくらせて
いただくということで進めたいと思うがよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

では、事例になるような各市議会のBCPのホームページがあるので、
これを次長から説明してもらえれば。

下間書記

今送らせていただいたのが、各市議会、これまでに議会BCPを提示
したところの目次について体系がわかると思ったので一覧にしてみた。
青い部分が大きな柱、大項目のようなイメージである。その中で、大津
市議会のように(1)、(2)という形で枝分かれして詳しいものができていっ
ているようなイメージである。こういった大きな柱のようなものをつく
って、そこに肉づけしていくようなイメージなのではないかと思う。

既に浜田市議会でも、浜田市議会における災害発生時の対応要領であ
ったり、災害行動時のマニュアル、先般、新型コロナウイルス対策支援
本部のほうで対応指針をつくったのでこういった対応指針。新型コロナ
ウイルス感染症が拡大していったときに新型コロナウイルス対策支援本
部設置要領というのをまず早急につくった。こういった、既に浜田市議
会のほうで作成している要領や指針といったものがあるので、そういっ
たことも考慮しながらBCPに加えていくイメージかと思う。BCPに
入れていく中で、今あるものが足りないのであればそれも当然改良して
入れていくことになるかと思う。今あるものも一緒に見ていきながら、
それを入れ込みながらBCPをつくっていくイメージである。各市議会
がつくられている大きな項目を、まず決めていってもらえたらと思う。
議会改革推進特別委員会のフォルダ内に、浜田市や県内他市の業務継続
計画のフォルダをつくらせていただいた。これは議会だけの業務計画で
はなく、浜田市に今ある業務継続計画をはじめ、大田市の事例など、市
が持っている業務継続計画を載せている。そこの整合性もやはり必要
かと思って入れている。

島根県議会も既に業務継続計画をつくっておられる。これらも参考に
してもらったらよいかと思う。前回やった12月20日のフォルダには、
大津市、横須賀市、長浜市、芽室町、津山市といった市議会のBCPも
入れているので、幾つか参考になるところは入れている。まずはこの大
項目を決めていってもらったらよいかと。特に参考にしたい市議会のB
CPがあれば言うていただくと、そこを参考につくっていくこともでき
るかと思う。

牛尾委員長

幾つか出ているが、今度我々が視察する大津市が103ページで読み込

むだけで大変。この間の事例発表でいえば、倉敷市議会が発表されていた。この辺がベースに考えるなら一番考えやすいと感じた。

次長が言ったように、市は地震しかない。県議会は風水害、地震、感染症、その他。松江市に原発があるので、四つの柱に分けてやっている。当市の場合にはそういう流れでいくと風水害、地震、感染症、それに入らないその他、幾つか柱を立ち上げながら、それをコロナ禍でどのように整合性を取りながら組み込んでいくか、という形のまとめ方が取り組みやすい気もするのだが。この辺は皆で共通認識を持って、どういう方向で取り組んでいくか最初に少し議論したほうがよいと思ったりするのだが。その辺でご意見をいただけないか。

西田副委員長

四つの他市の例だが、それぞれ大きい災害を経験されたり、またこれから想定されそうなところで、危機感を持って策定されていると思った。シンプルに青字で書いてあるものが主な骨格になるとのことで、浜田市で想定される災害や、浜田市におけるしっかりした目的、議会の役割、議員の役割、そういったところが、どの市の事例を取っても似通っているとは思いますが、その中で骨格となるものを一つずつきちんと浜田市議会なりにつくっていくようにしたらよいのでは。想定される災害も大体似ているとは思いますが。まずは青字にあるような骨格を浜田市なりにきちんとつくったほうがよいのではないだろうか。枝葉についてはまた時間をかけて細かくできると思っている。

牛尾委員長

副委員長からお話があったが、この件について少し違うとか、こういう考え方もあるのだという意見をお持ちなら、意見を言ってほしい。

田畑委員

島根県がやっているように地震・風水害・その他でよいのではと思う。その他にどのような災害が含まれるか、感染症が含まれるかということもあろうかと思うが。今はコロナで大変なことになっているが、ある一定時期を過ぎるとこれも穏やかになってくるのではという気がするので、地震・風水害・その他でよいと思う。

村武委員

副委員長が言われたのでよいと思う。浜田市が想定される災害を骨格にするべきだと思う。新型コロナウイルス感染症というのは今田畑委員も言われたように、いつまで続くかというはあると思うが、その他の感染症も今後想定されると思うので、感染症も入れてもよいかと感じている。

小川委員

副委員長が言われたような形で進めていただければよいと思う。つくるときの対象となる災害について、事例の中でも表を見てみると、特に例えばテロ対策だとか、そのようなことも入っているところがあったもので、そこまで広げて災害の中に入れるかどうかもあるもので。まず想定される災害の範囲、どこまでを対象とするかでは、先ほどのことで浜田市として大体想定される範囲でつくっていけばよいのではないだろうか。議会のBCPもだが、研修にもあったが、事務局にもそういうのがあるなら一緒につくるのもどうかと研修を聞く中で少し感じている。そ

れも併せてどうするか検討していただければ。

とにかくBCPをつくる目的とは、そういう災害時に参集できない、あるいは今でいうと通信がつながっていることが前提なのだが、通信遮断、電気が使えない状態、そういうことも含めて想定するかどうか少し、どういう対応ができるか検討する必要があると思う。その中でも何とか議事機関として議会機能をどうやって維持するかが一番のポイントのような気がする。そういうところを柱にしながら、個別の条文等については先ほど副委員長が言われた方向でつくっていければよいのでは。

佐々木委員

やり方としては副委員長が言われたような。大体どこの議会も統一的なものもあるし、こういった項目をまず上げながら、中身は独自のものも検討しながら進めていけばよいと思う。

これは議員の役割部分になると思うが、災害の規模にもよるだろうが組織で議会が動くのはなかなか大変だと思う。委員会を開いたり本会議を開いたりするのは別だが、これは東日本大震災のときに当地域のある議長が首長と一緒にいろいろな住民に対する支持を100日間くらい泊まり込んでやった。自分としてはやった感があったのだが、実は地元住民から大変なバッシングを受けて。肝心なときに地元にはいないとは何事だというようなことも、過去の災害事例、議員の経験からもあるので、やはり現場と一緒に動いて動きながら議会議員としての役割を進めていくということが非常に重要かと思う。これはこれからの話だが少し感じている。

足立委員

進め方は副委員長の言われた流れでよいと思う。先ほどコロナウイルスの関係があったが、いろいろな災害時において複合的な何かの災害によってまたウイルス感染の拡大も伴ってしまう可能性もあるので、そこは、今後はいろいろな災害時においても、コロナウイルス、インフルエンザも含めて、いろいろなウイルス系もセットにして考えていかないといけないかと思う。そこは皆と一緒に考えたい。

牛尾委員長

皆のご意見を伺った。副委員長が申し上げたように他市もやっているこのような柱の中で、浜田市特有の案件も含めて入れる。それから、今までウイルス感染などは我々の頭になかったのだが、今後はこういう世の中で、南極の氷が溶けるから新しい細菌が発生するのだというようなことを言う人もいる。後発でつくるのだから徹底してよいところを見習いながら、しかも浜田市に合ったものをつくるのが理想なのだろう。こういう流れの中でやっていけば良いかと思う。

それから小川委員が言われたように、この地区特有の、長い海岸線を持っているからいわゆる対岸の脅威というか、テロ対策なども皆のご意見を伺いながら一応触っておくのがよいのかということも含めて、議論の中で皆の総意があれば。具体的にいくと北朝鮮の武装難民対策なども、入れるのも想定できないことはない。皆とご意見を交わす中で一応そこまで踏み込むことになれば、やがてその他の中でできるかと思う。

県議会がその他で原発のことを書いているように。浜田市は原発から110キロ離れているためあまり関係ないと思うが、対岸の脅威については触れる必要があるのかと。それは皆のご意見を伺いながらまとめていく必要があるのでは。大体ご意見を承った。

西田副委員長

ある程度、たたき台をつくる必要があるのか。大体共通した項目について基本的なたたき台をつくらせてもらって、それをベースにたたいていく流れのほうが。BCPについては今日が初回なので、流れ的にはやりやすいのかと。たたき台をつくるのは、大変は大変なのだが。ただそのような流れがよいと思ったりするがどうだろうか。

六つの市議会の例がたたき台としてあるので、その中で浜田市に一番近い感じの他市BCPを参考にして、そこからいろいろアレンジを加えてもよい気がする。こちらで全部つくるのもよいが、一番近いところで。皆基本的に骨格はほぼ似通っているので、その中で一番近そうなところで。例えば倉敷市や大津市を骨格にしたたたき台から始めても、別に悪くはない気がする。

牛尾委員長

ほかにご意見は。副委員長が言うように今度大津市議会を視察するが、何せ大津市議会は103ページ。ボリュームたっぷりなので。逆に言えば倉敷市議会あたりは22ページで、一番取り組みやすい感じもする。

次回はとりあえず倉敷市議会あたりをベースに考えていく、もしくは大津市議会からベースに、浜田市議会ならこれは要らないとか、こうするべきだというような流れで皆と議論をいただけるようにしようか。どうだろうか。倉敷プラス大津くらいでベースの議論をしていく形で、浜田市ならこうだということがあれば皆から意見を出してもらって、そういうものを組み込んでいきながら、荒っぽいベースをつくっていくような議論をしたい。次回はそのように調整させてもらってもよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのように次回準備させてもらうということで。少し絞り込んで、たたき台を準備するのでよろしく願います。

(2) 大津市議会 WEB 行政視察実施について

牛尾委員長

3月18日、全員協議会室で行う。説明をお願いします。

下間書記

(以下、資料をもとに説明)

牛尾委員長

大津市議会はマニフェストランキングでもトップ10常連で、毎年いろいろな取り組みで表彰を受けておられる市議会なので、BCPに関しても日本で最も進んでいる自治体だとのことである。そういう超先進市の議会に視察するので、事務局が言ったように通り一遍の質問ではなく核心に迫る質問を皆、読み込んでいただいてぜひ質問通告を出していただくようお願いする。

先ほど言ったように結構無理して通告するので、締め切りを25日にとお願いをしていたが、先ほど正副と事務局で打ち合わせをしたが、

22日13時までには、1日でも早く向こうへ質問通告を送りたいということで決めさせていただいたので、その時間までにぜひ、1人1問くらいは出していただきたい。ちなみに3ページにはホームページから抜粋というところがあるが、平成27年4月には災害等対策基本条例を制定とある。これを僕は通告させてもらいたい。各市議会もBCPの中で災害対策会議というのをつくと書き込んでいるが、やはりここはそれを基本条例まで持っていつているということで、非常に質問したいと個人的に思っている。相手が先進市で、日本でも先行した自治体なので、それに見合ったような質問をぜひ、皆の英知を結集してもらって、最低1問は出してもらうように。どうしても出ない場合もあるだろうが、その辺は一つよろしく願います。この件については何かあるか。よろしいか。

ウェブで行政視察するのは、浜田市議会でも今回初めてなので緊張はするのだが。ウェブで受けたことはあるが我々が行くのは初めてだと、第1回目、歴史の1ページを開くことになるので、しっかり質問事項をひねり出してもらうようお願いする。この件についてはよろしいか。

(「はい」という声あり)

委員派遣報告書と行政視察レポートの作成というのがある。視察報告は全員協議会で報告するので、視察報告書をあらかじめどちらかに書いていただければと考えている。皆に振るのは大変失礼なので、先ほど、この方々にぜひやっていただければという話し合いをしていた。ぜひご推薦をお願いしたいが、お名前を出すどうしてもあんばいが悪いようであれば言うていただければ。経験豊富な佐々木委員と2期目で新鮮な女性議員にぜひ担当していただければと。勝手に我々の中で、していただければよいと思っていて、今日初めて言ったので、困るようであれば率直に言うていただければ、またこの場で人選したいがいかがか。

佐々木委員

かつては1から10まで担当者が作成するものだったが、全員協議会で報告という決まり事を踏まえて委員会全体でつくるというのが大きな変化である。その上で、それこそ、たたき台のたたき台をつくるイメージでさせてもらって、当然皆の意見もそれを網羅した、いわゆるまとめ役のような形でないと、この前決めたことは意味がないので、そういう形での役割なら私はよい。あくまで皆でつくる、意見は皆で出す。だから担当者に投げるようなことではおかしいと思う。

牛尾委員長

ご意見感謝する。言い回しが悪かったかもしれない。委員会としての報告にならねば意味がないので、それぞれの委員が意見、報告書を出し、それをまとめていただく。全員協議会で報告できる形にまとめるのが必要だと思う。

下間書記

今資料を送らせていただいたが、これは前特別委員会で議論した結果のものである。行政視察報告(行政視察レポート)の実施についてということで、特別委員会で検討した結果このように、今後、浜田市議会としては進めていこうというものである。今までも行政視察された後には

3 ページ目にあるように、視察後は委員派遣報告書をつくってもらっている。それは各委員会でやり方はどうか分からないが、どなたか担当者を決めて作成する。それはそれで必要である。それはそれでつくってもらって議長に提出する。それを踏まえて②の行政視察レポートをつくっていただくイメージである。この行政視察レポートとは、今までは視察に行つて委員派遣報告書をつくって議長に提出して、そこで完結していたが、せつかく先進地に行つてすばらしい事例を学んできたのであれば、それをほかの議員や執行部にも情報提供したほうがよいのではということからできたものである。また報告書とは別に行政視察レポートを、パワーポイントのようなものでつくって、それを全員協議会の場などで発表するというイメージである。

日向市議会の事例だが、このように議会運営委員会の行政視察報告をパワーポイントでつくられている。行つた目的、どのようなことを学んだか、最後のページなどは視察を終えた各委員の所感をまとめたものを掲載している。各委員からは何らかの所感みたいなものは出してもらいながら、パワーポイントをつくっていく。先ほど佐々木委員が言われたように、まとめていただく。提出は各委員からしてもらおうが、どなたかがまとめるようなイメージなのかと。こういったパワーポイントみたいなものをつくってもらうのが行政視察レポート。従来の視察報告書はワード形式で、その提出は今までどおりつくってもらわねばならない。

牛尾委員長

新しい行政視察レポートが義務づけられている。従来と違うのは事務局が今言ったようにパワーポイントで説明できるようなもの、それから各委員の所感もあるが、それを踏まえて委員会としての考察が最後にある、これが重要なポイントなので、それはお2人だけにどうこういうレベルではない、委員会全体としてまとめをしなければいけないということなので、佐々木委員が言われることは十分承知している。行政視察レポートをつくるとなると初めてなので、全員で取り組みしないとけないと思っている。皆もご承知おきいただき、全員参加で。誰一人取り残すことなくレポートに参加するということを考えているので、どうぞよろしく願います。

ではここで10分間休憩する。

[10時58分 休憩]

[11時07分 再開]

議題2 委員会代表質問について

牛尾委員長

書記から説明をお願いします。

下間書記

(以下、資料をもとに説明)

牛尾委員長

3 か所の事例があつたので事務局から説明した。最近の浜田市議会の流れでは各常任委員会が一つのテーマを決めてまとめて年度末あたりに

市長へ提言する流れもできてきている。そういうことも含めて、所管事務調査が非常に大事だと言われる流れの中で言えば、委員会代表質問とは非常に現実的ではないかと個人的に思っている。友好都市である糸魚川市は、毎週所管事務調査をやるという。そういう熱心にやっているところもある。大体、委員会代表質問についての概要はぼんやり見えてきたが、参考事例を示した上で皆の意見を改めてお伺いしたい。

佐々木委員
足立委員

取り組んだ状況なども少し確認しながら研究していければと思う。

委員会の一般質問をするのは新しい取り組みに、実現するならやっていこうかと思うが、やはり所管事務調査においても各議員が疑問を感じた部分を執行部に問うているのだから、そうしたところを継続して、よりよい市民サービスができるようにするためには、一つ有効な手段ではないかと思うので、これもチャレンジしてみたい。

田畑委員

委員会代表質問について、私は最初に少し発言したかと思うが、私はやったほうがよいのではと思う。今、会派代表質問をやっているが大体の目安は施政方針についてやっているのので、各会派ともほとんど見方が同じようになっていると思うので、それぞれの常任委員会でしたほうがよいのではと思う。

村武委員

愛知県岩倉市議会の所管事務事項の、政策提案を積極的に行うためと書かれている。現在浜田市でも委員会で政策提案をするためにテーマを決めて取り組んでいるので、この委員会代表質問はそういった意味でも有効だと思うので積極的に進めていきたい。

小川委員

委員会として質問することについてはよい方向だと思う。それも、することができるという形で盛り込むことになると思う。恐らくそれをされる方は、一般質問はそのときはされない、どちらか選ぶ格好になると思う。常任委員会内での委員会活動というか、各テーマに基づいた取り組みがある程度方向性が決まったときに総括的に報告する形になると思う。あとは時期。中には4回のうち3回はそれをやることもあるが、そういうのを参考にしながら、年に1回やるのか毎回やるのかも今後検討する必要があると思った。やるという方向で結構だと思う。

西田副委員長

一番の目的は議会の活性化というか、政策提案を積極的に市に提言することが重要になってくる。これが目的だとのことなので、これまでの浜田市議会としての各常任委員会でいろいろな政策討論、テーマを決めて1年近くかけていろいろなことを最終的には市に提言していった。そういうことについて、今度は逆に委員会代表質問ということで、市とのキャッチボールもできるということで、さらに提言に向けてよいことだと思っている。あまりやるタイミングは設けなくても、毎回議会でやらねばならないこともでもないし、その委員会で旬のいろいろなテーマがあると思うので、機が熟したタイミングで、そのときの議会に向けて委員会代表質問がされれば、効果的なやり方になるのでは。あまり堅苦しくせず、やるタイミングのときにどの議会でもできるようなほうがよい。

牛尾委員長

ほぼ全員の方が、新たな切り口として委員会代表質問に前向きな返事をいただいたので、ぜひ進めたい。今日せっかく議長がお見えなので、感想があれば。

笹田議長

先進地事例を見ていて、それぞれよいものがあると思ったのだが、可児市議会などは委員会質問をしても一般質問ができるとなっているので、そういうところもあるので浜田市独自のものをつくっていただいて。今、常任委員会という話もあったが特別委員会もあるし、いろいろ幅を持たせておくと市民へのPRにもなるし、こういった委員会が活動しているのだということにもなるので、ぜひ進めていっていただけたら。

牛尾委員長

ケーブルテレビで放映されるのだから、議会の新たな切り口として、こういうことを新たに取り組んでいるのだと市民に見えるため、非常に有効な手段だと思う。それから委員会を代表してやるのだから、旬な話題、市民にとっても差し迫っている問題を市長にぶつけて答弁をもらう姿は、年度末に申入書を渡すよりはるかに大きな効果があるのだろう。執行部もある種の答弁をしなければならぬので、非常に有効であるという認識を持った。

ではこの件については次回以降、やるという流れの中で例えば具体的な、委員会代表質問した人は一般質問もできるのかできないのかという個別案件のたたき台をつくらせてもらって。副委員長が言ったようにあまり縛るのではなく、大らかな感じで。頻繁にやるわけにいかないだろうから。可児市議会も最初は委員会であったけど、しばらくなかったりしているようだ。少し緩やかなたたき台をつくらせてもらって、その中でこれは入れよう、これは外そうという各論を次回させてもらえばと思うが、そういう流れでよろしいか。

(「はい」という声あり)

ではそういう流れでやるので、正副でその辺をまとめて、浜田バージョンをつくらせてもらって、たたいてもらうようにしたい。よろしくお願ひする。

下間書記

会派の中でも話をしておいてもらったらよいかと。

牛尾委員長

そうである。では一旦、この話を会派に持ち帰ってもらって、こういう流れで今やっているのだがということで、今回はその返事をもらってということで。

下間書記

会派の意見をいただくのと、また3月は会派代表質問もある。会派代表質問が終わった後に検証というか、今後も会派代表視察をやるかどうか踏まえながら、個人と会派と委員会代表の三つをやっていくのか、何かをやめるのかといったことも踏まえて会派の意見をいただけたらと思うが。

牛尾委員長

せっかくの機会だから会派代表質問をしないというような議論まで会派内で議論したほうがよいのかどうか。議会として会派代表質問が今あるわけだから、それを会派内で、また別の機会で行わないと。

その件は別にして、委員会代表質問を新たに一つの議会ツールとして執行部とやり合うくらいで置いてもらわないと大変なので。だから会派代表質問は置いておいてもらって、今度新たに委員会代表質問を考えているのだが、特別委員会の中では前向きに検討しているのだが皆はどうか、というテーマで会派内に振ってもらって、議論してもらって、次回持ってきてもらう。それを見越してある程度のたたき台みたいなものをつくっておくので、次回やるときに大方の賛成を見越して一応のプランをつくるので。ただ前向きに進めようというだけの言葉をいただくだけの委員会では申しわけないので、あらかじめ大方の賛成をいただけるような見込みでたたき台をつくるので、ぜひ会派内で合意形成をしていただければと思う。よろしく願います。以上でよろしいか。

(「はい」という声あり)

議題3 その他

牛尾委員長

その他ないか。

(「なし」という声あり)

議会も差し迫っているので、今日はこの程度で置こうと思う。次回の日程、本会議中にもう1回くらいやらないとどうだろうか。事務局に案はあるか。

下間書記

ウェブの行政視察が3月18日にある。

牛尾委員長

18日のウェブの前の打ち合わせを、22日13時が締め切りなので質問を出してもらい、1回ウェブの前に打ち合わせしないといけないのではないか。ウェブ視察の心構えも含めて。よいだろうか。相手に失礼があってはいけないので、大方の流れを。まだどういう質問が出るかわからないし、こういう質問を準備して通告したという流れで1回おさらいする必要はないか。当日集まるのもよい。

下間書記

接続確認も含めて、10時からなので、その日は少し早く、9時くらいに。

牛尾委員長

その日の少し早い時間からのほうがよいか、それとも別の日がよければ。その日が一番頭に入るのは入るが。やはり先進地に胸を借りるので失礼があってはいけないので、1回流れみたいなものを積み上げさせてもらって、失敗がないようにしたいのだが。当日9時集合ということで。それは正式な委員会としてではなく。打ち合わせということで9時に案内はしてもらえるか。では当日9時、この部屋で打ち合わせをしたい。よろしく願います。次回については18日のウェブ視察が終わった後で打ち合わせをして日程を決めたい。

それでよいか。

(「はい。」という声あり)

では皆そういうことで。18日9時集合10時から視察なのでよろしく願います。

委員各位から、ほかになにかないか。では次回は3月18日ウェブ視察の日に1時間早く来ていただき、この場で打ち合わせするのでよろしく願います。本日は以上で終了する。

(閉議 11 時 30 分)

浜田市議会委員会条例第65条の規定により委員会記録を作成する。

議会改革推進特別委員会 委員長 牛尾 昭 ⑩